

中川町災害時備蓄計画



平成 29 年 1 月

中川町

1 本計画の位置づけ

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、地震の規模がマグニチュード 9.0、最大震度 7 で、日本観測史上最大の地震でした。さらに、この地震に伴う福島第一原子力発電所の事故は、甚大は被害を広範囲にもたらし、各種ライフラインの寸断、高速道路、鉄道及び港湾等の都市基盤施設にも大きな被害をもたらしました。

また、平成 27 年 9 月 9 日から 11 日にかけて発生した関東・東北豪雨においては、鬼怒川の堤防決壊及び越水が発生し、全半壊家屋 5,000 棟以上という甚大な被害が発生しました。

これらの経験からも、国や道、市町村だけでなく、警察、消防、自衛隊等の防災関係機関に大きな脅威を与え、住宅や施設の耐震化整備、避難所等の整備、食糧及び資機材の備蓄等を含め、各種災害に備える教訓となり、さらなる対策と強化を進める必要性が高くなっています。

本町においては、平成 26 年 9 月に地域防災計画を全面改定しているところですが、災害対策における備蓄体制を整備するためにも、個別計画として中川町災害時備蓄計画を策定するものです。

2 基本的な考え方

災害発生時は、被災地域における流通機能が停止し、町外からの救援物資が届きにくい状態になることが懸念されることから、「自らの身の安全は自ら守る」という防災の基本に鑑み、町民は日頃から、被災直後に必要な物資を備えておくことが必要です。

しかし、災害発生時には、多数の避難者及び負傷者の発生が予想されます。このため、町は、町民自らが非常用持出品として食糧品等の備蓄をすることを基本とし、町においては避難生活に必要な物資及び資機材を備蓄します。

上記の考え方に基づき、町が行う行政備蓄に関する計画を具体化するものであり、計画期間は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 カ年とします。

【参考】

○家庭内備蓄

家庭内備蓄とは、町民が自らの家庭において 3 日以上以上の食糧や飲料水の備蓄を行う等、日頃から災害時に必要な物資を備えておくことをいいます。災害時には被災地域における流通機能が停止するなど、外部からの救援物資が届きにくい状態になることが想定されることから、各家庭における備蓄を促進していく必要があります。

○流通在庫備蓄

流通在庫備蓄とは、町内の食料品店等の事業所から災害時に必要な物資を調達することをいいます。この流通在庫備蓄を活用していくことによって、行政備蓄の経費及び管理コ

ストを削減し、町全体の備蓄体制の構築に努めるとともに、円滑な物資の調達体制を確保していきます。

○行政備蓄

行政備蓄とは、町が平時から行う食糧等の備蓄をいいます。大規模な災害時には、多数の避難者及び負傷者が発生することが予想されることから、行政備蓄として避難生活に必要な物資及び資機材の備蓄を行うことが必要です。

3 行政備蓄の目標数量

行政備蓄の対象人口は、想定される最大規模の災害として、平成28年10月31日に北海道開発局旭川開発建設部が公表した「天塩川水系天塩川上流洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」に基づき算定しました。

想定する最大避難者数の概数 1,200人

「天塩川水系天塩川上流洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」に示された浸水想定区域内すべての世帯を対象とします。

（1）目標数量

食糧及び飲料水の目標備蓄数量については、1,200人3日分（1人3食/日、1人9リットル/日）とし、災害発生から4日目以降は、町外からの支援物資等により補うものとします。

飲料水については、アルファ米用等最小限の備蓄とし、中川町と株式会社中川水道とによる「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき、給水することとします。

【必要とする数量】

食糧；1,200人×9食＝ 10,800食

飲料水；1,200人×9リットル＝10,800リットル（うち、1,200リットルを備蓄）

【家庭内備蓄】

各種広報活動等により家庭内備蓄を奨励し、最大避難者1,200人のうち、30%にあたる360人が備蓄食糧等を持ち出せるものとします。

【流通在庫備蓄】

町内の食料品店等の事業所から有償で確保できる食糧品等を、最大避難者1,200人のうち、40%にあたる480人分とします。

【行政備蓄】

町が行う食糧品の備蓄目標数量は、最大避難者 1,200 人のうち、30%にあたる 360 人分とします。

【全体備蓄数量】

備蓄区分	食糧数（食）	摘要
家庭内備蓄（30%）	3,240	360 人×3 食×3 日
流通在庫備蓄（40%）	4,320	480 人×3 食×3 日
行政備蓄（30%）	3,240	360 人×3 食×3 日
計	10,800	

【年齢及び性別区分ごとの対象人数】

区分	対象人数（人）	備蓄品目
最大避難者数	1,200	
0 歳	9	粉ミルク、紙おむつ
1～2 歳	26	粉ミルク、アルファ米（おかゆ）、紙おむつ
3～69 歳	812	アルファ米等
70 歳以上	353	アルファ米（おかゆ）等
女性（10～55 歳）	235	生理用ナプキン

※区分内訳は、平成 28 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳人口に基づき算出。

4 備蓄品目

（1）食糧品

食糧品については、日常生活の主食に近い米飯を中心に備蓄を行います。

品目	摘要
粉ミルク	乳幼児用として、アレルギー対応型の粉ミルクとします。
アルファ米（おかゆ等）	幼児及び高齢者用として、アレルギー特定原材料等を含まないものとします。
アルファ米（五目ご飯等）	成人用として、アレルギー特定原材料等を含まないものとします。
レトルトパウチ総菜	アルファ米では補うことの難しい栄養素を摂取できるものとします。
飲料水	ペットボトル型の飲料水とします。
缶詰パン	1 缶 2 個入
ビスケット	5 枚×6 パック

(2) 生活用品

避難所生活を送る際に必要となる生活用品を備蓄します。

品目	摘要
毛布	
アルミマット	
簡易ベッド	段ボール組立式
紙おむつ（乳幼児用）	
紙おむつ（大人用）	
生理用ナプキン	
タオル	

(3) 避難所用資機材

各避難所において行う避難所生活及び災害時応急対策活動等、避難所運営に必要となる防災資機材及び生活資機材を備蓄します。

品目	摘要
ポータブルストーブ（電源不要タイプ）	
ガソリン発電機	
カセットガス発電機	
屋外用テント	避難者受付、炊き出し用等
プライベートテント	更衣室、授乳室、入浴室等
簡易間仕切り	段ボール製
簡易トイレ	
懐中電灯等照明器具	
ラジオ	
カセットコンロ	
カセットガス	3本セット （カセットコンロ、カセットガス発電機用）
担架	
特設公衆電話用電話機	停電時も使用できる災害時専用電話（発信専用）

5 備蓄目標

(1) 食糧品

品目	対象	算出根拠	数量	保存期間
粉ミルク	0歳	1人1日5回×3日分	9人×1箱(16キューブ) ×30%=3箱	1年6カ月
粉ミルク	1~2歳	1人当たり3食×3日分	26人×1箱(16キューブ) ×30%=8箱	1年6カ月
アルファ米 (おかゆ)	1~2歳	1人当たり3食×3日分	26人×3食×3日×30% =71食 ≒70食	5年
アルファ米 (五目ご飯等)	3~69歳	1人当たり3食×3日分	812人×3食×3日×30% =2,193食 ≒2,200食	5年
アルファ米 (おかゆ)	70歳以上	1人当たり3食×3日分	353人×3食×3日×30% =954食 ≒950食	5年
レトルトパウチ 総菜	3歳以上	1人当たり3食×3日分	1,165人×3食×3日× 30%=3,145食 ≒3,150食	5年
飲料水	全員	1人当たり1日1L ×3日分	1,200人×1L×3日× 30%=1,200L	5年
缶詰パン	全員	1人当たり1缶(2 個入)	1,200人×1缶=1,200缶	5年
ビスケット	全員	1人当たり1缶(5 枚×6パック入)	1,200人×1缶=1,200缶	5年

(2) 生活用品

品目	対象	算出根拠	数量	使用期限
毛布	全員	1人1枚	1,200枚	-
アルミマット	全員	1人1枚	1,200枚	-
簡易ベッド	-	各避難所に5台	60台	-
紙おむつ (乳幼児用)	0~2歳	1人当たり1パック (Sサイズ82枚、M サイズ64枚、Lサ イズ54枚) 1人1日当たり8枚 を目安とします	$35人 \times 1 \text{ パック} \times 30\% =$ 11パック $\approx 10 \text{ パック}$	3年
紙おむつ (大人用)		1人当たり1パック (Mサイズ30枚、L サイズ26枚) 1人1日当たり6枚 を目安とします	10パック	3年
生理用ナプキン	10~55歳 の女性	1人当たり1パック (15個) 1人1日当たり8個 を目安とします	$235人 \times 2 \text{ パック} \div 4 \times$ $30\% = 36 \text{ パック}$ $\approx 30 \text{ パック}$	3年
タオル	全員	1人当たり5枚	$1,200人 \times 5 \text{ 枚} \times 30\% =$ 1,800枚	-

(3) 避難所用資機材

品目	算出根拠及び数量
ポータブルストーブ (電源不要タイプ)	12 避難所 30 台 避難所の規模に応じて 1~5 台
ガソリン発電機	規模の大きな 6 避難所 6 台
カセットガス発電機	規模の小さな 6 避難所 6 台
屋外用テント	12 避難所 12 基
プライベートテント	規模の大きな 6 避難所 18 台
簡易間仕切り	体育館を有する 2 避難所 300 個
簡易トイレ	12 避難所 30 台 避難所の規模に応じて 2~6 台
懐中電灯等照明器具	12 避難所 24 台
ラジオ	12 避難所 12 台
カセットコンロ	12 避難所 24 台
カセットガス	12 避難所 72 セット
担架	10 台
特設公衆電話用電話機	14 避難所 14 台

※指定避難所 14 カ所のうち 12 カ所の開設を想定

6 備蓄計画

食糧品、生活用品及び避難所用資機材の備蓄計画については、下記のとおりとします。
各備蓄品について、5 カ年で備蓄目標に達するように年次的に購入等の整備を行います。

(1) 食糧品

保存期限は、5 年以上のものとし、保存期限を迎えるものについては、当該年度内に実施する防災訓練等で使用することとします。

(2) 生活用品

避難所等において使用した場合または不足が生じると予想される場合は、随時補充します。

(3) 避難所用資機材

備蓄目標に向けて年次的に購入等の整備を行います。

備蓄品整備計画

分類	種別	規格	目標数量	単位	H28.12.1 現在	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画	H33 計画
食糧品	粉ミルク	0カ月～1歳 キューブ (27g×16個)	3	箱	0	3	3	3	3	3
	粉ミルク	1～3歳 キューブ (28g×16個)	8	箱	0	8	8	8	8	8
	アルファ米 (おかゆ)	42g	70	食	100	15	15	15	15	15
	アルファ米 (五目ご飯)	100g 食物アレルギー特定原材料 27品 目不使用	2,200	食	350	370	370	370	370	370
	レトルトパウ チ総菜	50g 食物アレルギー特定原材料 7品 目不使用	3,150	食	100	600	600	600	600	600
	飲料水	2L、500mL ペットボトル	1,200	L	450	240	240	240	240	240
	缶詰パン	1缶2個入 100g	1,200	缶	174	240	240	240	240	240
	ビスケット	5枚入×6パック	1,200	缶	190	240	240	240	240	240
生活用品	毛布	圧縮パック入不織布毛布	1,200	枚	100	220	220	220	220	220
	アルミマット	2,000mm×1,000mm×8mm ポリエチレンシート、アルミ蒸 着フィルム	1,200	枚	100	220	220	220	220	220
	簡易ベッド	段ボール組立式	353	台	10	10	10	10	10	10
	紙おむつ (乳 幼児用)	Sサイズ 82枚、Mサイズ 64枚、 Lサイズ 54枚入	各サイズ 3	パック	0	10	10	10	10	10
	紙おむつ (大 人用)	Mサイズ 30枚、Lサイズ 26枚入	各サイズ 5	パック	0	3	3	3	3	3
	生理用ナプキ ン	15個入	30	パック	0	10	10	10	10	10
	タオル	20枚×10パック	9	パック	0	3	3	3	0	0
避難所用 資機材	ポータブルス トープ	電源不要タイプ	30	台	10	4	4	4	4	4
	ガソリン発電 機	3.8kVA	6	台	1	1	1	1	1	1

分類	種別	規格	目標数量	単位	H28.12.1 現在	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画	H33 計画
避難所用 資機材	カセットガス 発電機	900VA	6	台	0	1	1	1	1	2
	屋外用テント	3.6×5.4m	12	基	0	2	2	2	3	3
	プライベート テント	2.3×2.3×1.8m	18	台	0	3	3	4	4	4
	簡易間仕切り	2.0×2.0m	300	個	0	0	0	100	100	100
	簡易トイレ		30	個	1	0	0	10	10	10
	懐中電灯等照 明器具	乾電池式 LED ランタン	24	個	10	6	6	0	0	0
	ラジオ	手回し充電式	12	台	0	0	3	3	3	3
	カセットコン ロ	ケース付	24	台	0	5	5	5	5	4
	カセットガス	3本セット	72	セット	0	12	15	15	15	15
	担架	四つ折り式	10	台	0	2	2	2	2	2
	特設公衆電話 用電話機	電源不要タイプ	14	台	0	14	0	0	0	0

7 家庭内備蓄の推進

家庭内備蓄の意義及び必要性について、防災のしおり及び洪水ハザードマップ等の配布等を通じて、町民に対して啓発を行っていくこととします。

家庭内備蓄については、3日分の食糧及び1人1日3リットル以上の飲料水の備蓄を呼びかけていくとともに、災害発生時等の避難が必要なときにすぐに持ち出せる場所に保管するようあわせて呼びかけていくこととします。

(1) 家庭内備蓄の例

- ・ 飲料水（ペットボトルのものが望ましい）
- ・ 食糧品（火を通さなくても食べられるものが望ましい）
- ・ 救急薬品
- ・ 携帯ラジオ
- ・ 懐中電灯
- ・ 防寒具（防寒着、使い捨てカイロ等）

8 行政備蓄品の保管

食糧品等の備蓄品については、中川町役場庁舎、中川町水防倉庫及び中川町防災倉庫に保管します。今後、災害発生時に避難者に対し速やかに必要な物資が適宜配分できるよう、各避難所に物資を分散して配備する環境を整備します。